

活動終了報告書（要約）

採択年度	2023 年度
コード番号	22-A-182

団 体 名	被爆者証言の世界化ネットワーク	申請額
		1,000,000 円
		助成額(受領額)
事 業 名	被爆者証言並びに被爆体験表現の多言語翻訳	700,000 円
		事業地(国名)
		日本

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 * 300 字以内
私共の団体は 2014 年 1 月 24 日に、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館所蔵の 1500 本以上の被爆証言ビデオに多言語で字幕を付して世界の人々に被爆の実相を知らせる事を主目的として設立されました。以来 10 年間に亙る活動を通して 200 本以上の証言ビデオに 15 種類の言語で字幕をつけて参りました。この活動は、①祈念館、②翻訳チーム、③両者間の連絡を行なうと共に翻訳活動全体をコントロールする事務局、の三者の連携によって成り立っています。各翻訳チームは、①日本語を理解できるネイティブ、②外国語を理解できる日本人、③字幕の精度を高める監訳者、の三者から構成され、この編成の下、前期・後期、各 10 チーム体制で字幕作成に取り組んでいます。

■ 今回実施した活動の概要 * 400 字以内
2023 年度は、前期・後期で 10 言語 20 作品を完成させ、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に納品致しました。只、同祈念館の事情で、納品作品全てが同館の「平和情報ネットワーク」にアップされるには至っていません。コロナ禍もほぼ収束して海外からの訪問者が回復しつつありますので、残念な事態です。一方、コロナ禍でここ数年我々の活動も強い制約を受けてきましたが、その収束を踏まえ、活動の回復と今後の発展を期して、我々の活動を広く世の人々に知ってもらう為の広報活動に力を注ぐことにして、活動紹介の冊子を作成致しました。それは、我々の活動の必要性和目的を明らかにするのみならず、活動が数々のメディアに取り上げられてきたものであり、且つ、国内のみならず海外にも拠点をもつ活動であることを示す内容です。原稿全てを自力で作成し、印刷製本してもらったものですが、ここでは、印刷会社に提出した最終原稿を添付ファイルとして提出致します。

■ 成果 * 400 字以内
2023 年度の活動成果としては、上述の通り、広島祈念館に 20 本程の字幕作品を納品できました。これらの作品は、同館の「平和情報ネットワーク」にアップされ、世界に向けて発信されると共に、同館内で入館者の閲覧に供されています。本年度のノーベル平和賞が日本被団協に授与されましたが、選考委員会での審議に於いて、私共の団体が多言語に翻訳した被爆証言ビデオが、一定の貢献をし得たのではないかと推測しています。実際、私共の団体が、証言ビデオに多言語で字幕を作成する活動を始めた十年前には、被爆証言を外国語で発信する必要性も殆ど認識されておらず、祈念館に即して言えば、アメリカ・中国・韓国からの来館者に対して幾つかの証言を紹介できれば十分である、という認識に止まっていました。我々の団体の創始者である長谷邦彦氏が、長い時間をかけて祈念館関係者を説得して漸く、海外に向けた組織的な発信活動が始まったのです。

* 記載者へのお願い: 本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい(全体で 1100 字以内程)。